NO. 2015. 42 号
発行日：2015 年　2 月　3 日

検査のパレット

2015 年 1 回目の検査パレットは、「リパーゼ」についてお話します

リパーゼ（Lipase）は、脂肪を消化する酵素の一つで、食物中の脂肪はこのリパーゼによって分解され、腸管から吸収できるようになります。リパーゼは膵臓で作られ、十二指腸に運ばれます。膵臓の細胞が何らかの原因で障害を受けたり、破壊されると血液中のリパーゼの量が増えるため、膵疾患を調べる重要な検査の一つとなっています。

膵疾患には主に、急性膵炎や慢性膵炎、膵臓がんが上げられます。急性膵炎の原因は長年のアルコール摂取や胆石とされています。日本では、女性に比べ男性に多く（男女比 2.2：1)、ピークは男性で 50 歳代、女性では 70 歳代となっており、近年増加傾向にあるとされています。近年の増加傾向には、食事の欧米化も一つの原因となっています。

急性膵炎の診断は、主に上腹部痛などの臨床症状や血液検査、膵臓の画像所見を総合的に判断して行われます。血液検査では、主に膵臓酵素である総アミラーゼやＰ型アミラーゼ（膵臓に特異的)、リパーゼの高値を認めることが重要視されています。特に、リパーゼを測定することは、急性膵炎診断ガイドライン 2010 において推奨度 A（明らかな臨床上の有効性が期待できる）となっています。また、慢性膵炎や膵臓がんなどにおいても総アミラーゼに比べ、リパーゼは高い陽性率を示しており（表 1 参照)、P 型アミラーゼと合わせて膵疾患のスクリーニング検査として有用です。昨年 12 月より院内で検査可能となりましたので、臨床の先生方におかれましては必要に応じて、検査依頼して頂けたらと思います。

表 1　各膵臓疾患における血清リパーゼ、総アミラーゼ、P 型アミラーゼの陽性率 [2)]

	リパーゼ	総アミラーゼ	P 型アミラーゼ
急性膵炎	100％（21 例/21 例中）	81％（17 例/21 例中）	100％（21 例/21 例中）
慢性膵炎	70％（23 例/33 例中）	39％（13 例/33 例中）	61％（20 例/33 例中）
膵臓がん	58％（23 例/40 例中）	45％（18 例/40 例中）	60％（24 例/40 例中）

本年も「検査のパレット」をよろしくお願いいたします。

文責：永田　拓生　　監修：石竹　久仁